

映画上映会
入場無料
(要予約)

この街で暮らす

道草

みちくさ

監督 六戸大裕

令和2年12月5日(土)
14時上映開始 13時30開場
磯子区民文化センター杉田劇場

お申込み・お問合せ先

いそご地域活動ホームいぶき後援会事務局

☎045-778-1228 Mail:ibuki-kouenkai@lake.ocn.ne.jp

※メール申し込みの場合、追ってご連絡差し上げます



主催:いそご地域活動ホームいぶき後援会 共催:(福)光友会 いそご地域活動ホームいぶき (区連携事業)

皆様に安心して上映会をお楽しみいただけるよう「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」に基づき新型コロナウイルス感染拡大防止対策(3つの密を避ける等)を徹底した上で上映いたします。マスク着用、当日の検温、手指消毒等にご協力をお願いいたします。

観客、スタッフ・関係者に感染者が確認された場合、速やかに濃厚接触者の調査を行うためご来場の方全員のお名前、連絡先を収集する必要があります。ご協力をお願いいたします。

ご参加につきましては先着順で予約受付をいたします。表面のお申し込み先までご連絡ください。

たったひとりの世界では、
自分は見えない。
道草をしながらふたりで
歩く散歩は、この世界とつな
がり、相手の瞳に自分を映し
出す時間。
こんな時間をすべての人が
持つことができれば、わたし
たちはもっともつと優しくな
れるだろう。

瀧瀬あや(映画監督)

はみ出していく。 よし、はみ出していこう。

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。世間との間に線を引かれ、囲いの内へと隔てられた。そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たちが。タンポポの綿毛をとばしブランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。関わることはしんどい。けど、関わりなくなることで私たちは縮む。だから人はまた、人に近づいていく。

ひとはさびし、ふたりで歩く。
雨は降る、陽は輝く。人は泣き笑う。

<知的障害者の暮らしとは？>

知的障害がある人の暮らしの場は広がってきていますが「重度」とされる人の多くは未だ入所施設や病院、親元で暮らしているのが実情です。

2014年に重度訪問介護制度の対象が拡大され、重度の知的・精神障害者もヘルパー付きのひとり暮らしが出来る可能性は大きく広がりました。

そんな中、16年夏には相模原障害者殺傷事件が起きました。この街で誰もがともにあるために、新しい選択肢を見つめてみませんか？



2018年/95分/16:9/カラー/日本

監督・撮影・編集: 穴戸大裕 / 音楽: 末森樹 永原元 / 音響構成・整音: 米山靖 / 宣伝デザイン: 林よしえ / 宣伝イラスト: 木下ようすけ / 題字: 岡部亮佑

特別協力: 全国自立生活センター協議会 / 助成: 公益財団法人 キリン福祉財団 / 企画・製作: 映画「道草」製作委員会

お問合せ: 映画「道草」上映委員会 Tel: 080-3457-8833 FAX: 087-883-6570 info@michikusa-movie.com http://michikusa-movie.com/